

やっぱり「楽しい！」OSGS プログラム

小野湧雅

1月の初めから活動させていただいた、後期のOSGSプログラムも、いよいよ最終プレゼンテーションを残すのみとなりました。今回は、前回のレポートに引き続き、①授業について、②フィンドレー大学のシンポジウムにおける発表について、そして③埼玉親善大使としての活動について、の3点をご紹介します。

①授業のご紹介

先日、後期のすべての授業が終わりました。モット先生の授業は相変わらず面白く、また私たちが話す機会を多く与えてくださいました。このプログラムで身に付けることができたこととして、以前よりも自然に、抵抗感なく英語で会話することが出来るようになった点が挙げられます。

そして、何度でも言いますが、モット先生は非常に優しいです。このレポートをご覧になっていて、OSGSプログラムに興味のある方は、少し自信がなくてもぜひチャレンジしてほしいです！

②シンポジウムでの発表

授業を通じて調べてきた「アメリカと日本の音楽の違い」を取りまとめ、現地メンバーたちと合同で、フィンドレー大学のシンポジウムでの発表を行いました。現地メンバーは教室にて、OSGSプログラムのメンバーはZOOMを通じて発表する形式で実施し、新鮮さと同時に、10人全員で作りに上げたという実感も得ることができました。

作成段階では、ペアの学生と一緒に、音楽について家族や友人からの情報をもとに考えを広げていきました。ペアの学生と一緒に作り上げることで、英語でのコミュニケーションをたくさん経験することができました。

③埼玉親善大使としての活動

プログラムの期間中は、埼玉親善大使を委嘱されます。先日、その活動の一環として、ふじみ野市にある「ふじみの国際交流センター」の見学に行きました。

センターでは、日本語の得意でない方を対象に日本語を教えています。そこで日本語を教えている方々からのお話を伺ったなかで、日本における外国人と日本人の得られる情報量が違いすぎる、というお話が印象的でした。私自身海外から日本に帰ってきたときに、外国の方には伝わるのかな、と感じたことが多々あったためです。

また、見学のなかで、実際に学びに来ている方に、日本語を教える体験をさせていただきました。その際、メンバー全員で寄り添って教えたことで、雰囲気良く進めることが出来ました。この経験から、普段意識することのない日本語の難しさを学ぶと同時に、言葉の壁は心を込めて丁寧に向き合うことで、打破しうるものだと学び取ることが出来ました。

この活動は、親善大使としての必要な考えを持つ良い機会となりました。親善大使として活動できる期間は残りわずかですが、これからも埼玉県魅力を皆様にお届けできるよう、活動をしていきたいと考えています。



ふじみの国際交流センターでの写真。国際化ならではの課題には、考えるところが多くありました。